

# THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



## WEEKLY

# なごや ちくさ

題字 黒野清宇

名古屋千種ロータリークラブ  
 承認 1982年 8月24日  
 例会日 火曜日 12:30  
 毎月最終例会 18:00  
 例会場 愛知厚生年金会館  
 事務局 TEL763-5110 FAX763-5121  
 会長 和田正敏  
 幹事 田部井良和  
 会報・雑誌委員長 宮尾紘司

No.32

## ロータリー2000：活動は一堅実、信望、持続

### ROTARY 2000：ACT WITH CONSISTENCY, CREDIBILITY, CONTINUITY

1999～2000年度 RI会長 カルロ・ラビッツァ

### きょうの例会

第843回 平成12年 3月14日 (火)

### クラブフォーラム(IM報告)

### 先週の記録

第842回 平成12年 3月7日 (火)

晴

### ◆“君が代”“それでこそロータリー”

### ◆新入会員紹介



氏名 神谷 幹雄  
 生年月日 昭和21年 3月12日  
 事業所 名古屋情報システムズ(株)  
 東区葵1-26-12 一光新栄ビル9F  
 TEL935-3588 FAX935-6797  
 地位 代表取締役  
 自宅 瀬戸市萩山台9-21  
 推薦者 松居 敬二  
 職業分類 ソフトウェア  
 委員会 親睦活動

### ◆出席報告

会員 71(66)名 出席 38名  
 出席率 57.58%  
 前々回 2月22日 (修正出席率) 98.51%

### ニコボックス

秋山 茂則君 もう直ぐ3月10日、年寄りには懐かしい陸軍記念日。日露戦争で大勝利。大山元師が奉天に入城した勝利の日です。

浅井 誠寿君 すっかり梅が開きました。

白弾み出て 白梅と知られけり。

小坂井盛雄君 本日は暖かいですが、夕刻より又、寒気団襲来との事。

松居 敬二君 新入会員の神谷君を紹介させていただきます。

水野 民也君 本日スピーチさせていただきます。黒野先生、玄之会おめでとう。

森 幸一君 本日スピーチをさせていただきます。宜しくお願い致します。

足立 一成君、二村 聡君、林 哲央君、伊原 正躬君、池森 由幸君、伊藤 健文君、神崎 住恵さん、河村 政孝君、小林 明君、小山 雅弘君、宮尾 紘司君、水野 賀績君、中山 信夫君、西川 豊長君、西野 英樹君、大谷 和雄君、鷺谷 龍男君、佐久間 良治君、佐野 寛君、竹内 眞三君、谷口 優君、魚津 常義君、和田 正敏君、山田 壽勝君、吉田 節美君 新入会員の神谷君、ウエルカム！カム！

石黒 正則君 会員誕生日祝い。結婚記念日祝い。

神谷 幹雄君 本日より千種ロータリーに入会させていただきます。よろしくお申し上げます。

私の馬が火災の折、運良く従業員により救出されました。この幸運を大変嬉しく思います。

会員誕生日祝い。結婚記念日祝い。

◆3ヶ月間お世話になった会場レストラン メゾンブランシュ店長に会長より感謝の花束贈呈。

### 田部井幹事報告

1. 本日例会終了後、理事役員会を開催致しますので理事役員の方はお残り下さい。
2. 本日16時より名古屋東急ホテルにてIM登録されました方はご出席をお願い致します。
3. ガバナー月信とロータリーの友3月号が来ておりますので、お帰りにお持ち下さい。
4. 次回より例会場が厚生年金会館となります。お間違いの無いようご出席下さい。

## 和田会長挨拶

ラ・メゾン・ブランシュでの例会は、今日が最後です。出席人数が把握できない事、駐車場を使う車の台数の問題等、ブランシュの方たちに大変迷惑をかけたと思います。いやな顔ひとつせず、わがままな我々の例会に協力していただき、ありがとうございました。いつも例会で、ばたばたし、美味しいなと思いつつも食事をかけ込んでいました。一度ゆつくりと食事がしたいと思い、先月、家族といっしょに訪れました。日ごろ見慣れたレストランと異なり、室内はうっすらと明るく、暖炉で燃える薪の火が暖かさをかもし出し、中庭は噴水を中心にライトアップされ、南仏を思わせる気分でした。

雪混じりのとても寒い日の例会のとき、あの中庭を見ていて、ふいっと中学の英語の授業で習った、アメリカの作家、オー・ヘンリーの短編小説を思い出しました。偶然、新聞にこの作者は、短編小説の名人で、生き方そのものが短編小説のように47歳の若さで死んだと紹介された記事があり、中学の時、習った短編小説の和訳も載っていました。

『肺炎にかかった若い女性がアパートの窓から外を見て言う。「最後の葉が落ちると、私もこの世にさようならするに違いない」。れんが造りの壁に、ツタの枯れ葉が五枚残っている。夜、嵐になる。朝、一枚が残った。勇気付けられた女性は元気を取り戻す。実は最後の一枚は、事情を聞いた老画家が壁に描いたものだった。が、彼が肺炎になり死んでしまう。』

「最後の葉」の小説の一節を紹介して、このレストランでの最後の例会の挨拶とします。

## ◆卓話

### “丸山あれこれ”

会員 水野 民也君



田代尋常高等小学校(現在の田代小学校)には、父、私、長男の茂生、長女のますみの親子3代が通いました。私が小学校の1年生の頃は、実際は4月5日生まれなのですが、3月31日にして1年早く入学したので一番小さく、通学は上級生の女の子と一緒に行きました。その頃の上級生もおばあさんになり、いまは誰もいなくなったようです。

丸山から田代小学校までこのレストランの前に二ツ池という池があって、細い小川が流れており、その小川に沿って丸山まで道がありました。丸山との間には東願寺池という池があり、もう一本大川という川が楳山の横を流れておりました。

楳山高等女学校は親父と丸山の松林寺の水野雷幢というお坊さんが世話をして大正の終わりに富士塚町(現在の白壁)から、現在の場所に移転してきました。その一番西側には寄宿舎があり、塀がしっかりしてなくて、どこからでも潜り込むことができたので、女学校の運動会があると、学校帰りに潜り込んで見えていました。その寄宿舎の前にはオリンピック選手の前畑秀子さん、小島一枝さんの銅像が(今も学校の正面にあります)建っていました。銅像を眺めていると兵藤さんが「かわいい坊やだね。」と頭をなでてくれました。(兵藤さんは私より7歳くらい年上です。)ある時、兵藤さんが東ロータリーへこられた折にこの話をしますと、「そんなことがありましたか。私はおてんばでしたからね。」と言っておられました。今でも忘れることができません。

楳山の南側を流れている大川は山崎川につながっていきます。当時は山崎川も整備されておらず昔ながらの川で、夏にはウソカの火祭りがあつたり、ホテルを採りに行ったりしました。両側の堤防の堤も草が芒々。楳山から流れてくる水を子供心に女の子の「おしっこ」が流れてくるんだと言って笑ったことを覚えていません。小学校の行き帰りには、楳山の横を通って行く道と、覚王山を通っていく2経路をたどっていました。

楳山の周りには桑の木がいっぱいあり、秋になると桑の実を食べ口の周りを真っ赤にして家に帰ると「桑の実を食べたな」といって叱られました。また、小川で小魚を捕ることは当たり前で、川の中で転んで衣服をベタベタにして帰ったこともありました。御柵妻には山の神の小さな社がありました。

その後、区画整理組合の事務所が田代小学校の北側に設立され、親父が組合長に就任しました。区画整理が始まり新しく広い道路ができました。昔からあった道で覚王山の付近は今の道から1本北側、ちょうど竹内産婦人科の南側が本道だったと思います。その間の松林にはサギ・カラスがたくさんいました。それから、松楓閣の前の細い道が、竜泉寺から覚王山、丸山、笠寺まで続き、笠寺から竜泉寺、荒子へ、荒子から甚目寺へ続き、甚目寺から竜泉寺へと、所謂「四観の道」といって一つになっています。

小学校の頃には市電はまだ覚王山まで通っておらず、西裏止まり(現在の千種駅近く)、西裏といっても東のはずれでした。しばらくの間、国鉄(JR)の踏切があったため市電との交差が許可されませんでした。昭和2年頃に陸橋ができて池下まで市電が開通し、その後覚王山まで通りました。

昭和12年に東山動物園が開園したため東山公園まで延長されました。さらに星ヶ丘に団地が建設されたことをうけ、星ヶ丘が市電の東の終点となったわけです。

昭和42年に地下鉄が星ヶ丘まで延長されました。このようなことが東部の発展の一途上でありました。

※紙面の都合上、森君の卓話は次回掲載と致します。

## ◆次回例会(3月25日~26日)

第8回ライラセミナー 愛知県美浜少年自然の家